

わが社の アジア戦略

中国東北部、遼寧省の省都・瀋陽。6月28日、大規模商業施設に中国で2カ所目となるショールームが開業した。店内には、金属製パイプを何本も並べた風変わりな形の冷房装置を展示。開業式典には地元テレビ局も取材に訪れ、多くの来場客でにぎわった。



「中国でも省エネ技術への関心が高まっている」。村上専宣社長(48)は人口13億人の市場開拓に自信を見せる。

エコファクトリー

中国企業へ揺るがぬ信頼

中国でも省エネ技術
への関心が高まってい
る。国内販売を著々と
増やす一方で、11年10月

中国や東南アジアで、独自の冷暖房装置の市場拡大を目指す村上尊宣社長

エコファクトリー 熊本市中央区。1996年設立。放射式冷暖房装置を製造販売。主力製品「エコウィン」は村上尊宣社長が3年かけて開発。2013年5月期の売上高は約1億5000万円。従業員10人。

社と現地に合資会社を設立した。昨年二月には年産能力五千丁の上場が稼働。空港ビルながら受注が相次いでいる。

中国への連企業は商習慣や国民性の違いに苦しむと言われた。村

上社長も進出前は開から中国人に礼拝された多と驚かされた。だが、「行ってみると全然違った」と笑う。合資相手の会社の会長は嚴な人柄で、交渉は最後まで

滑り進んだ。今年一月

には、長崎の新島襄に
も招かれ、旧正月前に食
べる伝統の豚角煮を振
る舞われた。「家族同然
のもてなしに感動した
合併会社への目柱の出
資比率を30%と定め、
三権権はあえて合併相
手に握らせている。「中
国は會長の威風。相手
は會長の親類。宴会に
は、この振動に事出す
14年1月期の売上高見込
みは前期の4倍の6億
円。「国は尊えと、ビシ
ッの基本は信頼関係
相を警戒するのはな
く、まずは信じるのが
大事だ」。村社長は3
年後の株式上場見据え
ている。(永松英二郎)

の利益を大事にしないとうまくいかない」と狙いを明かす。日中間では沖縄県、尖閣諸島をめぐる緊張が続くが、経営者同士の信頼関係が揺らぐ心配はないという。

- ・日刊工業新聞
H23年9月29日掲載
 - ・西日本新聞
H25年7月18日掲載
 - ・熊本日日新聞
H26年1月6日掲載
- ...他、掲載紙多数

エコファクトリー

代表取締役社長

むらかみ たかのぶ
村上 尊宣氏

中国市場に期待

[illegible]

放射式冷暖房装置「エコウィン」

日刊工業新聞 平成23年9月29日掲載

冷暖房 エコでコスト3分の1

宇土市民体育館放射式システム

宇土市は市民体育館に環境配慮型の放射式冷暖房システムを設置した。冷暖房と温風が吹き出す一般的な対流式のエアコンと比べ、運用コストが3分の1程度となるなどコスト低減につながった。アルミニウム管に冷・温水を通し、室温を調整する。熊本市の空調機器製造・販売のエコファクトリーが開発した。同社によると、この方式の体育館設置は国内で初めて。

体育館の耐震改修を機に導入した。アリーナ1階部分(1680平方メートル)の壁に、横3メートル、縦2.5メートルのパネル17枚を設置。設定温度になるまで約20分かかるが、空気にそよぎが出ず温度のムラが少ないのが特徴だ。

市教委によると、設置費用は1億2千万円で対流式と比べ約半額、電気代も1時間当たり300〜600円ほどという。

耐震改修の全費用は4億円。このため、利用者の冷暖房負担は1時間2千円から(アリーナのみ)と県内の同規模施設より割安に設定した。市教委は「有料スポーツイベントには冷暖房が必須で、誘致に力を入れたい」と話す。(並松昭光)

(並松昭光)

熊日新聞 平成25年8月26日掲載

AllRightReserved©ecofactory2013

西日本新聞 平成25年7月18日掲載

ベンチャー企業社長 村上尊宣さん(48)

省エネ武器に世界へ挑戦

風も音も出ない。しかし手を近づけると、ほのかな暖かさを感じる。電気代が従来の半分という省エネ型の冷暖房装置「エコウィン」は、村上尊宣社長(48)の持つ水処理と設計のノウハウ、そしてエコ住宅構想が一つとなって生まれた。

「床暖房に使われていたヒートパイプがヒントになった」と村上社長。建築家を夢見る息子に誇れるものづくりがしたい、との思いが製品化の原動力。発売から6年がたち、国内各

2014年が本格的に動き出した。午年のことし、はねて駆け上る。新年に懸ける人たちを取り上げる。

◇ ◇



① 2014

地の体育館や介護施設などに使われ、千台以上を売り上げた。

国内での実績をバネに、2011年には中国に進出。省エネ低コストを武器に、ことしはインドネシアなど東南アジアにも販売網を広げる。製品も改良を重ね、4月には性能を上げた新製品を投入する計画だ。

「3年後の上場というジャンプにつなげるため、新たな年は海外へのステップの年にしたい」。熊本から世界へ。次なる飛躍に向け、村上社長の新たな挑戦が始まる。(上杉勇太)

【インドネシア-家電】

熊本発の省エネ冷房、年間2千台販売へ

遠赤外線の原因を応用した放射式のエアコン「エコウィン」を製造販売するエコファクトリー(熊本市)は、来年からインドネシアで本格的に販売を開始する。新型を投入し、代理店を通じて年間2,000台を出荷する計画。従来型のアコンに比べて大幅に省エネルギーを実現できる利点をアピールし、オフィスや大型住宅に売り込む。

拡販に向け、来年2月までに現地の販売総代理店2社を決める。年間1,000台の受注を条件に選定しているところだ。22日にはインドネシア・ジャカルタで経済産業省九州経済産業局らが開催した商談会でトップセールスを実施した。

村上尊宣社長は「面談した各社は風と音がない放射式エアコンの革新性に強い関心を示していた」と指摘。10月にマレーシアで開かれる東南アジア最大級の環境・エネルギー総合見本市「I G E M 2013」に新製品を出展し、「代理店候補にじかに体感してもらうことで契約をまとめたい」と語った。

エコウィンは建築家である村上社長が2007年に開発。業務用を中心にこれまで1,000台を販売した。来年4月に発売する新型は住宅用(30畳向け)となり、価格も従来品より安い1台60万~70万円に設定することで普及を図る。

海外では、11年に中国に合弁会社を設立し、昨年には

現地生産も開始した。中国以外のアジア地域では、今年9月に香港に合弁で営業拠点を設立する。各国の総販売代理店はシンガポールと香港で指名済み。タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナムでも来年2月までに決定し、インドネシアを合わせた8カ国・地域の計14社で年間1万4,000台の販売を目指す。

エコファクトリーの14年5月期の売上高見込みは前期比4倍の6億円。アジア向けで売り上げを伸ばし、3年後の株式上場を視野に入れている。



商談会で現地企業にエコウィンを説明する村上社長(右から2人目)
=22日、ジャカルタ(NNA撮影)

NNA.ASIA

Copyright (c) 1997 - NNA All rights reserved.

是非、ホームページも、ご覧ください！

エコウィン

検索



http://www.ecofactory.jp

熊日新聞夕刊1面掲載 平成26年 1月6日

NNA.ASIAに掲載 平成25年 8月23日